

# 遊工房アートスペース



youkobo ART SPACE

## 年間報告

# 2011

遊工房アートスペースでのアーティスト・イン・レジデンス事業は

 平成 23 年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業として採用されました。

# 目次

	ページ
1. はじめに — 2011 年を振り返って	.....1
2. 遊工房について — ヴィジョン・バリュー・ミッション	.....2
3. 活動概要	
3-1. 10 周年記念事業と震災	.....3
・おかえりなさいプロジェクト Re: (特別招聘)	
・10 周年特別企画展	
遊工房の歴史展／遊工房コレクション展／10 周年記念展／	
AIRs vol.2 アーティスト・イン・レジデンスのほんとうのはなし	
・震災の影響と修復	
3-2. AIR プログラム	.....7
3-3. ギャラリー・プログラム	.....12
3-4. スタジオ・プログラム	.....15
3-5. イベント(アーティスト・トーク、クリティーク・セッション、シンポジウムなど)	.....16
3-6. 研修制度 GIP: Global Internship Program	.....20
3-7. 調査研究 マイクロレジデンス・ネットワークの可能性	.....21
4. ネットワークの展開	.....22
4-1. Res Artis アーティスト・イン・レジデンスの世界ネットワーク	
4-2. JENESYS Programme 東アジアクリエイター招へいプログラム	
4-3. GTS 観光アートプロジェクト	
4-4. 新・港村ヨコハマトリエンナーレ 2011 特別連携プログラム	
4-5. その他国内外でのネットワーク活動	
5. コミュニティ・アート活動	.....25
5-1. 「トロールの森」10 周年	
5-2. 「春のトロール」展と福島・南相馬市支援	
5-3. 「アートキッズ」子どもの為のワークショップ	
6. 2011 年活動一覧	.....付表

## 1. はじめに - 2011 年を振り返って

「10 年の重み、遊工房アートスペース 10 周年」

2011 年は、いろいろな意味で重みのある年となりました。同時に、当たり前のように考えていた時間の積み重ねが、いかに尊いものであったかを強く意識した年ともなりました。遊工房アートスペースのこれまでの 10 年をふり返ってみても、沢山のアーティストたちやアート関係者の関わりの経過の中で培われた活動が結果として遊工房を育ててきました。

2011 年は、2002 年に正式名称を遊工房アートスペースとしてから、10 周年の年に当たり、多彩な企画を用意しながらのスタートでした。ギャラリーでは 13 人 5 グループ(実績、7 人、3 グループ)の国内アーティストによる展覧会、アーティスト・イン・レジデンスは、16 人(実績、13 人)の海外アーティストの受入計画がありました。特に 10 周年を意図し、「お帰りなさい！」の願いを込め、計画の半分では過去に遊工房で滞在したアーティストに再滞在・活動を促すと共に、共にこれまでの活動を振り返る良い機会とすることを意図しました。2 月には、20 年ぶりの滞在となった ETTY Horowitz、3 月には、オランダからと英国からそれぞれ 2 人組のアーティスト 2 組 4 名が滞在制作を開始しました。しかしながら滞在開始まもなく、3 月 11 日に日本人の我々も初めて経験する大震災に見舞われました。東日本大震災は、レジデンスアーティストの帰国や計画の中止など混乱が続きましたが、5 月には、施設内の安全を確認した部分を活用して、若手の作家の発表を始められ、徐々にペースは戻りました。一方、遊工房が関わっている地元の都立善福寺公園での野外アート展、「トロールの森」も 10 回目の開催となり、一挙に多忙な秋を迎えました。震災の影響と、10 周年のタイミングの折り重なる不思議な年となった 2011 年はあっという間に経過しましたが、アートの活動を通して、アーティストと共に社会の中に存在していくことが大切なことであると強く再認識する年となりました。

アーティストの皆さんと共に活動してきたこの 1 年は、在外公館、関連機関、美術関係者など、多くの方々、組織からご理解とご支援をいただき成し遂げられました。

ルクセンブルク大公国大使館、ルクセンブルグ大公国文化省、オランダ王国大使館、オーストラリア大使館、フィンランド大使館、フィンランドセンター、スカンジナビア・ニッポン・ササカワ財団、Arts Council of Finland, Arts Council of Oulu、日本ミャンマー友好協会、Res Artis、Asian Cultural Council、国際交流基金、21 世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS)、日米友好基金、国際文化会館、GTS(藝大・台東・墨田)観光アートプロジェクト、BankART1929、東京藝術大学、女子美術大学、東洋美術学校、我孫子国際野外美術展、トロールの森実行委員会、都立善福寺公園、桃井第四小学校、新町商栄会、ラジオぱちぱち、その他沢山の組織から多大なるご協力を賜りました。

そして、引き続き、EU・ジャパンフェスト日本委員会からは、当方の活動全般に関わる助成を頂きました。また、遊工房 AIR プログラムは、文化庁が 2011 年度より始めた「文化芸術の海外発信拠点形成事業」として採用頂くことが出来ました。当方の活動へのご理解とご支援に深く感謝申し上げます。

遊工房の活動はこのように多くの組織からの支援と共に、ボランティアの方々や、アーティストの方々によって支えられています。この場をお借りしてお礼申し上げます。

遊工房アートスペース共同代表

村田 弘子

## 2. 遊工房アートスペースについて

アートは社会と一体の不可欠なものであり、人々の生活に潤いと気付きをもたらすものです。遊工房アートスペースは、独自のアート活動を通して、地域性と国際性、伝統文化と現代美術という一見異なる方向性を示す要素を繋ぎ、多様性が自然に受け入れられる場づくりや交流を実践しています。真摯に活動するアーティストの表現活動の支援と共に、地域社会の一員として、今後とも実践を通じたアート活動を継続していきます。

### ヴィジョン

遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となることでアーティストを支援、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指しています。

### バリュー(核となる価値観)

#### ・開放性と交流:

アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールであると考えます。

#### ・フレキシビリティ(柔軟性):

アートとアーティスト活動の本質に対して、私たちの活動はフレキシブルな取組み方が不可欠であると認識します。

#### ・自律性:

コミュニティや他の組織と強固なネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストと遊工房自身の個性と多様性を維持します。

### ミッション

・真摯に活動を続けるアーティストの創作・発表の活動を支援します。(AIR プログラム、ギャラリー・プログラム)

・国内外のアーティストの交流、さらに地域社会の人々との対話を通じた相互理解の醸成を図り、多様性が受け入れられる社会の形成を目指します。(アート・イベント、トーク)

・他の AIR センターやアートスペースとのネットワークを築き、より多くの人々がアートを楽しめる環境づくりに努めます。(Res Artis、J-AIR Network、AIR-J など)

・人々がアートに接する様々な機会を生み出し、アートが社会にとって不可欠であるという認識を広まるよう努めます。

遊工房アートスペースは以下のメンバーで運営されている任意団体です。

共同代表: 村田弘子、村田達彦

スタッフ: 針谷美香、栴田有理、ジェイミ・ハンフリーズ、鈴木慶子、進藤詩子、佐々木祥江、太田エマほか

### 3. 活動概要

#### 3-1. 10周年記念事業と震災

##### ・おかえりなさいプロジェクト Re: (特別招聘)

AIR プログラムでは、16 人(実績 13 人)の海外アーティストの受入計画がありました。特に 10 周年を意識して、計画の半分は過去の滞在作家に再来日を促し、遊工房自身もこれまでの活動を振り返る機会を得ることを目指しました。2 月には、20 年ぶりの滞在となった Etty Horowitz(米国)が再滞在、彼女の遊工房での初めての滞在は湾岸戦争が勃発した年(1999)で、当時はイスラエルの工科大学の学生でした。その後米国に渡りアーティストとして活動を開始し、結婚後 2 児の母となり再来日、遊工房のスタジオで地元小学校 6 年生とのコラボレーションを開催するなど、大いに活躍しました。また、3 月には Nicky Coutts & Liz Murray(英国)が再来日し滞在制作をスタートしたところで、3.11 の大震災に遭遇、制作を中断し帰国を余儀なくされました。震災の影響で 8-9 月に滞在を予定していた Almut Rink(オーストリア)は、来日をずらし 2012 年度に滞在予定となりました。9 月には Leo van der Kleij(オランダ)が、10 月には、Katrin Paul(ドイツ)、Antti Ylonen(フィンランド)、Jak Peters(オランダ)が次々と再来日し旧交を温め活躍し、内半分のアーティストは、具体的に次のプロジェクトへと繋げて帰国したことを、力強く感じました。



エティ、桃四小中学生とのワークショップ



アンティ、丸山芳子と制作準備



ヤック、ボランティアと設営準備

##### ・10周年特別企画展

###### <遊工房の歴史展>

「スタジオ遊工房」から「遊工房アートスペース」へ

「これまでの 10 年、今年の 10 周年、そしてこれから」

これまでに数多の交流がここから育まれた。

いままでの全ての試みがここに記憶されている。

今日、これからが始まろうとしている・・・



60 年前の建築途中の鉄骨写真

遊工房アートスペースの活動内容は、国内外のアーティストが滞在・制作するアーティスト・イン・レジデンス事業(AIR)を主軸としており、1989 年、当時の「スタジオ遊工房」が、松前財団の招聘建築家 Gorun Ozsen(トルコ)の受け入れ以来、活動は 20 年余りが経過しました。2002 年に「遊工房アートスペース」と名称を改め、スタジオ、ギャラリー及び宿泊施設を備えたアートの複合施設として正式にスタート、2011 年に 10 周年を迎えました。ギャラリーは、若手作家に実験的な発表の場を提供しており、約 150 の展覧会が開催されています。また、市民とアートを繋げる美術普及活動も積極的に推進しています。

### <遊工房コレクション展「これまで、今、これから」>

3.11 以後改修され、すっかり様相の変わった新ギャラリーで、10月9日(日)～16日(日)の期間、コレクション展を開催しました。活動の10年を振り返り、今までの活動を10周年記念誌にまとめるためのアーカイブ整理と並行して、遊工房の所蔵作品の整理を行ないました。AIRプログラムに参加した愛すべきアーティスト達からの120点以上の大小の贈り物、作品の山から10点の作品にしぼって展示。新ギャラリーは、メインとサブの2つに空間を分割できる構造となっており、メイン・ギャラリーで本コレクション展を開催しました。



### <10周年記念展>

11月3日(木・祝)～11月23日(水・祝)は、地元の善福寺公園での野外アート展「トロールの森」と並行し、遊工房アートスペースでは、「これから」のスタートとして全展示スペースを使った企画を開催しました。

#### ① 進藤環 & 玉木直子「記憶の森」@ギャラリー

進藤環と玉木直子の二人展「記憶の森」は、地震の影響で改装を余儀なくされたギャラリーの新たな発進を飾るものとして企画されました。二人が採用しているコラージュという技法は、曖昧な状態から具体的な形態へと決定するのに向いていると思われます。二人の作品の在り様は異なりませんが、探るようにしてつくられたそれは意外なほど明快で、新しくなったギャラリーに展開した両者の作品は、調和しながらもそれぞれの世界観を力強く主張しました。



玉木直子

進藤環

#### ② 椛田有理「解凍された時間」@スタジオ 2

陽の移ろいにより光学的に変容するインスタレーションは、3月に中止になった自身の個展を基に再構築したものでした。窓に合わせた透明なアクリル板は見る時間によってネガポジが逆転しました。夜に見た観客は昼の状況を気にしても、昼に見た観客は夜での状況を気にとめないという奇妙な一方通行は、昼と夜の関係性を示唆するようで印象深く残りました。



### ③アンティ・イロネン、丸山芳子、丸山常生「サイレンス」@スタジオ 1

アンティ・イロネン(フィンランド)と丸山常生・芳子夫妻(日本)がコラボレートしたインスタレーション作品「サイレンス」は、今回の災害、とりわけ福島原発事故が共通のテーマとして敷かれています。それは三者三様の捉え方で遊工場のコンパクトなスタジオに編み込まれ、絶望と希望とを静かに納めた良質な「沈黙」として提示されました。



#### <AIRs vol.2 アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし>

12月23日(金・祝)はAIRというシステムとネットワークを活用したアーティストの人材育成、キャリアアップ支援を目標に、アーティストがAIRでの自らの滞在経験を、今後AIRへの参加を考えているアーティストと共有するトーク&ディスカッションシリーズの第二弾を開催しました(第一弾は5周年を迎えた2007年に開催)。第一部は「AIRに参加する」をテーマに、アーティストの小林史子と稲垣立男には実際に滞在したAIRでの活動について報告してもらおうと共に、キャリアにおけるAIRの位置づけについて語ってもらいました。また、アーティストの海外AIR滞在を支援する助成団体の活動内容と、支援する立場から見たAIRへの参加意義について、Asian Cultural Councilの吉野律が発表しました。第二部は「アーティスト・ランのAIR」をテーマに、世界のAIRの中で小規模ながらユニークな活動をしているAIR(「マイクロ・レジデンス」と分類)について遊工房が現在行っているリサーチについて紹介し、その具体例として、Shih Yun Yeo(INSTINC ディレクター/シンガポール)と松崎宏史(Studio Kura ディレクター/福岡)が、それぞれのプログラムについて説明し、また相互の交流プログラムについての事例を紹介しました。同時期に遊工場のAIRに参加していたStina Fisch(ルクセンブルク)と、ギャラリースペースでスタジオ制作中の松本恭吾のミニ・トークも開催しました。

翌24日(土)は、非公開のマイクロ・レジデンスのネットワーク会議を開催。遊工房、Studio Kura、INSTINC、Nha San Studio(ベトナム)の四者が、それぞれの組織、運営の経緯や現状、課題や目標などを発表しあい、それぞれにとってベネフィットがあり、かつ現実的なネットワーク形成の方法について議論しました。



12/23(左・中央)と12/24(右)の様子

#### ・震災の影響と修復

3月は、オランダと英国からそれぞれ2人組のアーティストが2組、計4名が滞在制作を開始しましたが、間もなく東日本大震災に見舞われました。日本人の我々も初めて経験する規模の大地震と、同時に始まった原発災害の状況

で情報が氾濫し、東京も首都機能が麻痺する中、滞在アーティスト達の安全を確保し、一刻も早く帰国できるように奔走しました。また、築 60 年の当アートスペースの壁面には亀裂が走り、使用中止の決断をせざるを得ない状況となりました。廃業の覚悟も念頭を過ぎる苦悶の中、何人かの建築家に相談し、耐震補強の可能性を調べるため、建物の内装を剥ぎ、躯体自身のダメージをチェック、リベット工法の鉄骨がむき出しとなるホワイトキューブのギャラリーが生まれることになりました。2011 年はアーティストと共に社会の中で継続的に活動し、存在していくことを強く意識した年となりました。



工事中、1F のむき出し現場

## 3-2. AIR プログラム

遊工房が取り組んでいる目標の一つは、アーティスト・イン・レジデンス(AIR)プログラムに参加するアーティストたちの創作活動に柔軟性を持たせることです。絶え間なく変化していくことを特徴とする現代アートにとって、アーティストの様々なニーズに応えるためには、AIR を運営する組織は、臨機応変なアプローチを取ることが不可欠だと考えています。

2011 年は、16 人のアーティストが AIR プログラムに参加しました。内、遊工房アートスペース 10 周年として、これまで滞在制作を行なった4組の作家を、リターニングアーティストとして受け入れました。3月の震災の影響で、2組のアーティストが途中帰国し、6月までの3ヶ月間はAIRプログラムを見合わせましたが、7月から事業を再開。原発の影響も懸念される中、海外アーティストが熱心に滞在制作を行なったことは、私たちにとって大きな励ましと、レジデンス事業を遂行する力を与えてくれました。

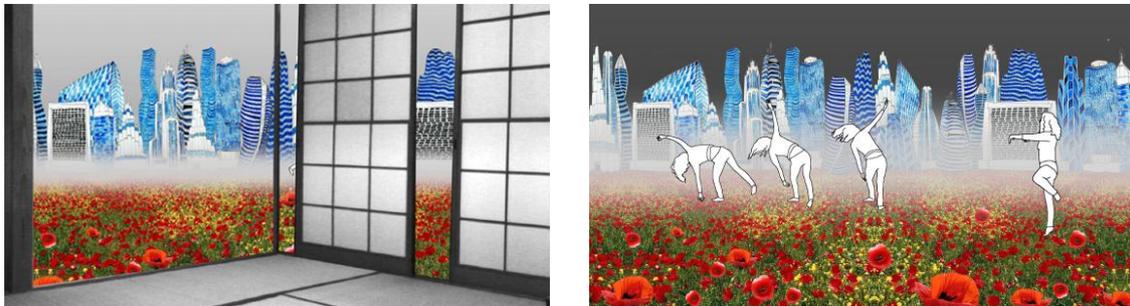
滞在作家は主に、スタジオでの制作、それに伴う成果展やトークを行ったり、或いは滞在をリサーチや充電に充てました。今年は、加えて外部の展覧会や企画展に参加したり、コミュニティーと関わりワークショップや制作を行なう作家も目立ちました。作家の要望と遊工房のサポートが上手く見合うよう、今年は意識的に作家との定期的なミーティングや、滞在の始めに自己紹介を兼ねた交流会を持ちました。結果、作家が自らボランティアや地元作家、美術関係者と関係を構築することを促しました。

以下に2011年の各滞在作家の活動を簡単にまとめます。

### マーテ・キースリング (ドイツ)

2010.12.1-2011.1.31. レジデンス1

マーテはドローイングとCGによる、新作のビデオ作品を制作。彼女自身の空想と夢と、東京という都市の風景、そして遊工房のレジデンスの建物を取り入れた作品を、レジデンス最後のオープンスタジオ展で発表しました。

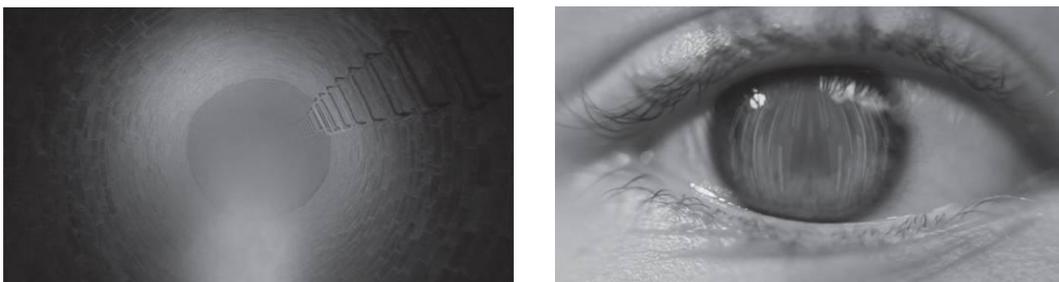


ビデオ作品、メトロポリスより静止画像

### トゥオマス・ライティネン (フィンランド)

2011.1.1-2.28 レジデンス3

ビデオ作品のリサーチ及び撮影を精力的に行ないました。又、2月10日(木)にアーティストトークと映像上映会を行ない、ビデオ作品、光やサウンド、マシーンをういたインスタレーション作品をスライドで紹介しました。



ビデオ作品、risingより静止画像

### エティ・ホロウィッツ（イスラエル・米国）

2011.2.1-2.28 レジデンス1+スタジオ1

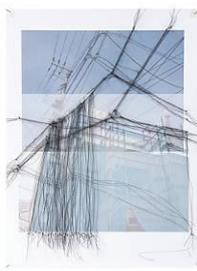
遊工房アートスペースの前身、スタジオ遊工房時代に建築家の卵として滞在経験のあるエティ。今回は、現代美術家として20年ぶりに来日。小学校でのワークショップ、町中でのインスタレーション、オープンスタジオなど活発な活動を行ないました。



### パート・ベンシヨップ&レオンティン・リーフェリング（オランダ）

2011.3.2-3.15 レジデンス1+スタジオ1

3ヶ月のレジデンスの予定で、高速道路から見える景色を題材に制作・発表を計画していましたが、震災の影響で途中帰国。2012年に再来日、滞在制作を完結する予定です。



ワークスインプログレス(左:パート、右:レオンティン)

### ニッキー・クーツ&リズ・マリー（イギリス）

2011.3.7-3.15 レジデンス3

10周年を記念したリターニングアーティストとして、ビデオ作品の上映会、及びリサーチ・撮影と、更に地元小学校で春のトロールの森の指導を予定していましたが、震災の影響で途中帰国。再来日の時期を検討中です。

### ヘイミッシュ・カー（オーストラリア）

2011.7.1-8.31 レジデンス1+スタジオ1

小山市立車屋美術館で開催された「内在の風景」展にむけ2ヶ月の滞在制作と成果展を行ないました。レジデンスという機会を活かし、場所と心象の風景のマッピングをテーマに、大小多数の作品を制作しました。



## ンゲ・レイ (ミャンマー)

2011.7.1-9.22 レジデンス3+スタジオ2

国際交流基金 JENESYS Programme 東アジアクリエイター招へいプログラム(21世紀東アジア青少年大交流計画)の招聘作家。制作の他、黄金町バザールでのシンポジウム参加、女子美術大学でのレクチャー、パフォーマンスグループとのコラボレーション等、精力的に活動。遊工房での滞在最後の展示では写真と彫刻によるインスタレーションを発表すると共にカタログを発行しました。



オープンスタジオ展



オープンスタジオ



まいまいハウスプロジェクトに参加

## レオ・ファンダークレイ (オランダ)

2011.9.2-10.1 レジデンス1

10周年を記念したリタナーニングアーティストとして再来日。近隣の小学校とのワークショップや撮影を行ない、滞在最後にトークと、20年来日本で撮りためた写真と新作を交えたオープンスタジオ展を開催しました。



オープンスタジオ展オープニング



クリティークセッション



桃四小生徒とのコラボレーション展示

(トロールの森2011)

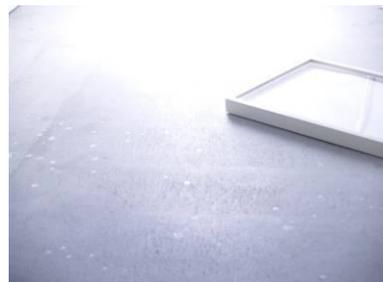
## カトリン・パウル(ドイツ)

2011.9.14-11.24 レジデンス2 及び外部

10周年を記念し再来日し、滞在制作を行なうと同時に、遊工房新ギャラリーのサブスペースで、「Zusammenfassen」を10月9日(日)から16日(日)まで展示発表。光の煌めき、黒い点、焦げ付いた痕、避けた肌という意味の題名から連想する、身体感覚を通して受けとめる詩的な世界を表現、空間を生かした展示でした。他に、「トロールの森」への参加、箱根写真美術館での個展発表等、精力的に活動をしました。



遊工房ギャラリーでの展示



## アンティ・イロネン (フィンランド)

2011.10.1-11.30 レジデンス1

10周年を記念したリターニングアーティストとして再来日し、リサーチと滞在制作を行ないました。滞在後半には、10周年記念として、母国で自らが運営するレジデンススペースに滞在した丸山芳子、そして丸山常生とのコラボレーション作品をスタジオ1にて発表。またトロールの森にも参加しました。



丸山常生、芳子とのコラボレーション展



トロールの森 2010 にて



## ヤック・ピーターズ (オランダ)

2011.10.1-11.30 レジデンス2

10周年を記念し再来日、滞在制作を行なうと同時に、メイン・ギャラリーでの10周年記念展にて映像作品「CAPER-PUT」を10月9日から16日まで発表。ギャラリー外壁に投影された短編ストップモーションアニメーション作品は、コラージュ的な手法で制作されたユーモアと批評、独特の美意識が特徴的で、秋空の行人の足を止めました。また、GTS(東京藝術大学が運営する芸大・台東・墨田)観光アートプロジェクト、トロールの森にも参加するなど、精力的に活動しました。



遊工房外壁での展覧会

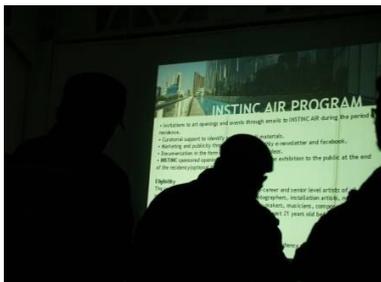


トロールの森 2011

## シーユン・ヨー (シンガポール)

2011.12.7-12.30 レジデンス2

アーティストであり、また自らAIR「INSTINC」を運営しているシーユンは、遊工房をはじめとする、都内のAIRやアーティストのスタジオを訪問しリサーチを行ないました。遊工房主催の「AIRs vol.2 アーティスト・イン・レジデンスほんとうの話」でプレゼンを行ない、今後もマイクロレジデンスネットワークの一員として交流関係を続ける予定です。



スティーナ・フィッシュ (ルクセンブルク)

2011.12.1-2012.1.31 レジデンス1+スタジオ1

ルクセンブルク大使館の招へいで初来日したイラストレーター・アーティスト。小学校とのワークショップ、地元のスクリーンプリント工房・久里屋グラフィックとのコラボ制作、大使館での展覧会を行なうなど、精力的に活動しています。



### 3-3. ギャラリー・プログラム

遊工房のギャラリー・プログラムは、主に日本在住のアーティストが、実験と展示の機会を最小限の費用で行えるに場を提供すること、そして、AIR プログラムに参加している海外のアーティスト達と地域との交流が図られる場となることを目指しています。

2011 年、ギャラリー・プログラムは 11 組のアーティストによる展示を催しました。日本在住の若手作家から、10 周年を記念して再来日を果たしたアーティストなど、様々な立場の作家が展示を行なうと共に、遊工房は「これまで、今、これから」と題した「遊工房コレクション展」、そして「トロールの森」10 周年と併せた企画展を開催しました。

3 月の震災を受け、3 月後半から 5 月までスタジオ 1 を臨時にギャラリーとして使用。6 月から 8 月の間は、ギャラリーの補修・耐震・改築工事の為、ギャラリー・プログラムを休業しました。新ギャラリースペースの完成と共に、10 月からプログラムを再開するにあたり、今まで以上に作家と寄り添ったプログラムを目指して展示スペースの在り方を再考して、プログラムの指針や使用規定を改訂し、新たな一歩を踏み出しました。

以下に 2011 年の各展示を簡単にまとめます。

#### 金井学 「観測と記述」

2011.1.27-2.13

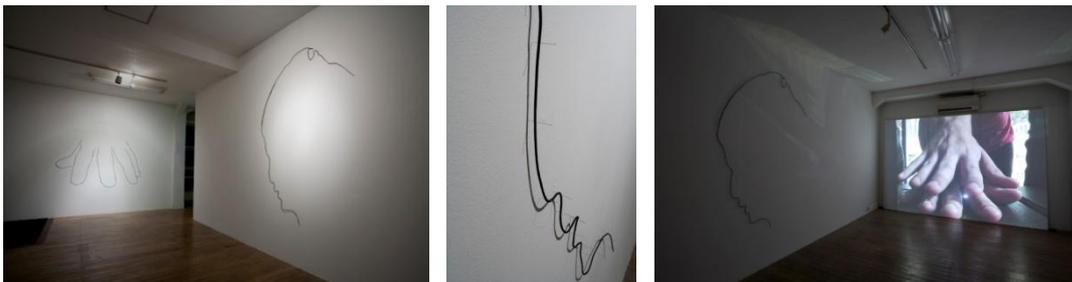
2009 年の個展に続き、ビデオ作品を複数用いて構成するインスタレーションに、今回はドローイングや電球など新たな要素も加わり、視覚を出発点に「作品を作る」行為が何かを真摯に追求する実験的かつ印象深い展示となりました。



#### リンダ・デニス 「pressions」

2011.2.23-3.12

母国のオーストラリアに帰国して撮影した、家族と手と手を重ねる行為を捉えたビデオ作品を中心に、靴ひもを使って壁面にドローイングを施すなど、身体的な「接触」を介した繋がりや結びつきへの関心が表現された展示でした。



### 金沢寿美 「38curtain」

2011.5.5-5.22

在日韓国人 3 世である作家が北緯 38 度線を訪れた日記を元に、地図、赤い線、緑のカーテン等をモチーフにインスタレーション作品を発表。地図上と現実の 38 度線が交錯する静かで且つ圧倒的な世界観が、スタジオ 1 を覆いました。



### 門田光雅 「門田光雅個展」

2011.5.25-6.12

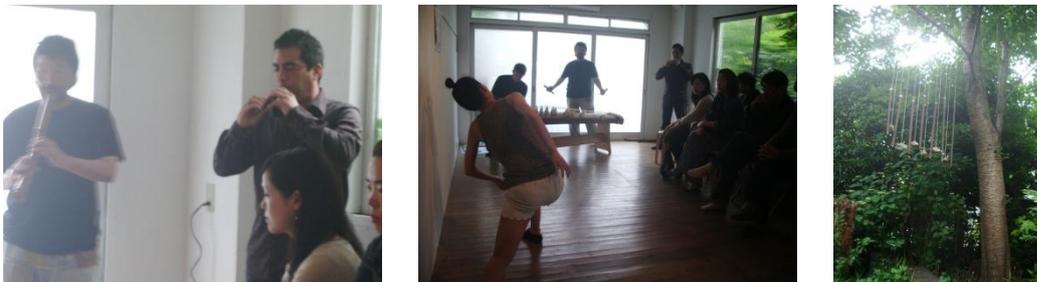
絵画を西洋美術史の文脈ではなく、日本美術のメディアとして捉え、日本独自の視点をどう表現するかを問う門田。ペインターとしての飽くなき探求が生み出した、大小様々のペインティングによる展示がスタジオ 1 で行われました。



### エドワード・ショッカー 「Bridge to the Outside」

2011.5.25-5.29

10 周年を記念し再来日した作曲家／サウンドアーティスト。遊工房の庭で、過去 10 年に各地で拾い集めた石やガラスなどの材料を用いて光や風で変化するサウンドインスタレーションを展開。ダンサーやミュージシャンとのコラボレーションによるパフォーマンスでは、雅楽の楽器演奏も披露しました。



## 遊工房コレクション展 「これまで、今、これから」

2011.10.9-10.16

過去に遊工房で滞在制作した作家が残していった作品の中から 10 数点を選んで構成した、新ギャラリーメインスペースのお披露目展。同時期開催のヤックとカトリンの展示と併せて、海外作家と遊工房の繋がりの歴史がくみ取れるような、ギャラリー再開に相応しい展示となりました。



## 遊工房 10 周年記念展

アンティ・イロネン、丸山芳子、丸山常生 「サイレンス」 スタジオ 1

進藤環・玉木直子 「記憶の森」 ギャラリー

椛田有理 「解凍された時間」 スタジオ 2

2011.11.3-11.23

開催内容は、前述、「3-1. 10 周年記念事業と震災／10 周年特別企画展／＜10 周年記念展＞」を参照ください。

## 加藤巧 「ワークスペース」

2011.12.1-12.18

リサーチと制作の為の現場として奈良を選び、そこで活動を続ける加藤。日本人として絵画というメディアの特性と可能性を探求した作品を、旧作から最新作を併せ、新ギャラリースペースを十二分に生かした初個展を催しました。



### 3-4. スタジオ・プログラム

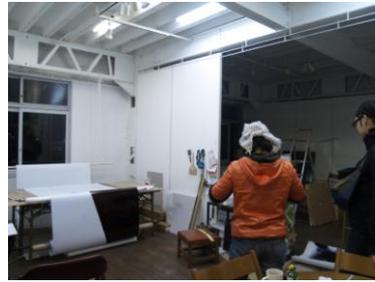
遊工房のスペース環境を生かした創作活動を展開する為のプログラムで、原則として1ヶ月単位での利用が出来ます。

但し、遊工房の年間利用計画の方針、日程に合致することが前提にプログラムは組まれます。

#### 梶田有理・梶田ちひろ

2011.1.1-3.11

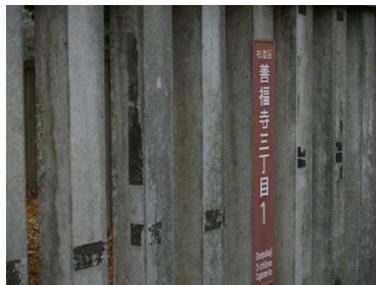
スタジオ2を共同制作スタジオとして利用すると同時に、定期的にオープンスタジオや企画展を催す目的で、12ヶ月の予定で利用を開始。梶田ちひろは、広いスペースを活かして制作した作品を東京都現代美術館で発表。梶田有理も3月の個展準備の為に制作を展開していましたが、3月の震災の影響で建物の修復工事が必要となり、残念ながら使用は中止となりました。



#### 松本恭吾

2011.12.23-2011.1.13 (展示 2012.1-14-1.29)

郊外を含む都市空間を作品の対象として制作する松本は、2011年から定期的に西荻窪という都市空間をフィールドリサーチ。12月後半より、遊工房のギャラリースペースをベースキャンプとし、リサーチをまとめ、作品へと昇華、制作し、2011年1月から展示を行います。また、最近行なったその他の都市でのフィールドリサーチ(オルルやつくば市にて)についても、トークイベントの形で発表する予定です。



### 3-5. イベント(アーティストトーク、クリティーク・セッション、シンポジウムなど)

遊工房では、国内外のアーティストと、より広いコミュニティとの交流を促すことを目的として、年間を通じてアーティスト・トーク、対談、さらにシンポジウムやワークショップなどのイベントを開催しています。また、活動に関連する講演も積極的に行っています。特に、2011年より新しい試みとして、非公開の形で「クリティーク・セッション」を開始しました。遊工房でスタジオ制作、ギャラリー展示を行なった作家が、より一歩踏み込んだフィードバックを得られる場として、遊工房スタッフ、遊工房に縁のある作家、美術関係者を集めて、率直な意見を交わす機会を目指します。

#### <アーティストトーク>

- ・2011.5.21 金沢寿美 (ギャラリー)
- ・2011.2.10 トゥオマス・ライティネン (スタジオ 1)
- ・2011.9.9 ング・レイ (スタジオ 2)
- ・2011.9.24 レオ・ファンダークレイ (ギャラリー)
- ・2011.11.12 進藤環、玉木直子、椛田有理、丸山芳子・常生、アンティ・イロネン(ギャラリー、スタジオ 1&2)

#### <対談>

- ・2011.5.28 門田光雅(展示作家)×勅使河原純(評論家) (スタジオ1)
- ・2011.12.3 加藤巧(展示作家)×宮田篤(ライター) (ギャラリー)



門田光雅と勅使河原純による対談



レオ・ファンダークレイのアーティストトーク

#### <クリティーク・セッション>

- ・2011.1.29 ギャラリー展示+レジデンス成果展  
金井学(ギャラリー展示作家)、マーテ・キースリング(レジデンス作家)、遊工房スタッフ
- ・2011.5.22 ギャラリー展示  
金沢寿美(ギャラリー展示作家)、作家アシスタント、遊工房スタッフ
- ・2011.6.12 ギャラリー展示  
門田光雅(ギャラリー展示作家)、フィリップ・ブロフィー(批評家/作家/キュレーター)、  
金沢寿美(作家)、黒野裕一郎(作家)、遊工房スタッフ

- ・2011.8.28 レジデンス成果展  
ヘイミッシュ・カー(レジデンス作家)、元田久治(作家)、飯田昌平(小山市立車屋美術館館長)、中尾英恵(同館学芸員)、遊工房スタッフ
- ・2011.9.18 レジデンス成果展  
ンゲ・レイ(レジデンス作家)、金井学(作家)、志津野千春、高木可奈子(トロールの森ボランティア)、遊工房スタッフ
- ・2011.9.26 レジデンス成果展  
レオ・ファンダークレイ(レジデンス作家)、カトリン・パウル(作家)、岩間航平(建築家)、遊工房スタッフ
- ・2011.11.19 トロールの森 2011、遊工房 10 周年展示  
ヤック・ピーターズ(レジデンス作家)、アンティ・イロネン(レジデンス作家)、黒野裕一郎(作家)、椛田有理(スタジオ展示作家)、玉木直子(ギャラリー展示作家)、遊工房スタッフ
- ・2011.12.17 ギャラリー展示  
加藤巧(ギャラリー展示作家)、仲世古桂伸(アートディレクター)、シーユン・ヨー(レジデンス作家)、ステイーナ・フィッシュ(レジデンス作家)、遊工房スタッフ



マーテ・キースリング(滞在作家)、金井学(展示作家)



門田光雅(展示作家)、フィリップ・プロフィー(ゲスト)

## <シンポジウム>

### 2011.7.18 「善福寺池プロジェクト」(ギャラリー)

マルコス・フェルナンデス、鳥越けい子他

ワールド・リスニングデイを記念したイベントを善福寺公園と改築中のギャラリースペースで開催。公園でのサウンドワークショップとギャラリーでのパフォーマンスが行なわれました。



### ・2011.9.17 内在の風景展シンポジウム (ギャラリー)

ヘイミッシュ・カー(遊工房レジデンス作家)、進藤詩子、佐々木愛、大西信明、元田久治、キロン・ロビンソン、ジェレミー・バッカー、片桐敦功(以上、展示作家)、原久子(インディペンデント・キュレーター)、中尾英恵(小山市立車屋美術館学芸員)、

長縄宣一(前発電所美術館)、星野美代子(川崎市民ミュージアム)、小澤志麻他  
 栃木県小山市立車屋美術館で開催の日豪交流展「内在の風景」(2011.9.17-11.27)のオープニング・イベントとして開催され豊かなアートフィールドの形成について様々な立場でアートに従事する登壇者が意見を交わしました。



・2011.12.23 「AIRs vol.2・アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし」

小林史子、稲垣立男、吉野律(Asian Cultural Council, Tokyo)、  
 Shih Yun Yeo(INSTINC/シンガポール)、松崎宏史(Studio Kura/福岡)ほか  
 「10周年記念事業と震災」、10周年記念特別シンポジウムの項を参照下さい。

<講演>

・日付: 2011. 8. 7

・主催者: BankART 1929

・催し: 新港村 小さな未来都市、BankARTLifeIII ヨコハマトリエンナーレ 2011 特別連携プログラム

・会場: 新港ピアー、横浜市

・テーマ: 「アーティスト・イン・レジデンスの今」

・講師: マリオ・カロ(Res Artis)、村田達彦

・日付: 2011. 8.27

・主催者: 群馬日仏協会 Franco Japon de Gunma

・催し: アートプロジェクト前橋 art project Maebashi

・会場: 前橋スズラン別館、前橋市

・テーマ: 「Youkobo Art Community—小さなアートの複合施設から大きな可能性を！」

・講師: 村田達彦・弘子

・日付: 2011. 9.12

・主催者: 台湾芸術進駐交流協会、Taiwan Artist-Residence Interchange Association

・催し: 台南文化芸術フォーラム Tainan Culture and Arts Forum

・会場: 台南文化センター、台湾・台南市

・テーマ: 「Res Artis AIRの世界ネットワークと遊工房の今」

・講師: 村田達彦・弘子

・日付: 2011. 9.13

・主催者: 女子美術大学・アート・デザイン表現学科 Dept. of Cross Diplinary Art and Design, Joshibi University

- ・催し： アートプロデュース表現領域、授業 Lecture, Field of Media Art and Design
- ・会場： 女子美術大学、東京・杉並 Joshibi Suginamu Campus
- ・テーマ： 遊工房アートスペース、野外アート展  
「トロールの森」、そしてミャンマーの女流作家の活動
- ・講師： 村田達彦・弘子、ンゲ・レイ、ジェイミ・ハンフリーズ



- ・日付： 2011. 9.22
- ・主催者： 杉並文化協会
- ・催し： 杉並アート会議
- ・会場： 杉並区立産業商工会館、東京・杉並
- ・テーマ： アーティスト・イン・レジデンスと地域アート活動・遊工房の活動
- ・講師： 村田達彦・弘子

- ・日付： 2011.10.18
- ・主催者： 女子美術大学・アート・デザイン表現学科
- ・催し： アートプロデュース表現領域
- ・会場： 女子美術大学、東京・杉並
- ・テーマ： 遊工房の滞在アーティスト、ドイツ女流作家の活動と、ドイツのアートシーン
- ・講師： カトリン・パウル

- ・日付： 2011.10.22
- ・主催者： 国際文化会館企画部アートプログラム
- ・催し： 芸術家のためのグラント・ライティング・セミナー
- ・会場： 国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール、東京・六本木
- ・テーマ： 海外の AIR 事情
- ・講師： 村田達彦

- ・日付： 2011.11.10
- ・主催者： 東洋美術学校・絵画教室
- ・催し： アート・プロデュース授業
- ・会場： 東洋美術学校・絵画教室、東京・新宿
- ・テーマ： 「Youkobo Art Community—小さなアートの複合施設から大きな可能性を！」
- ・講師： 村田達彦

### 3-6. 研修制度 GIP:Global Internship Program

・進藤詩子 2011年1月～3月(3ヶ月)

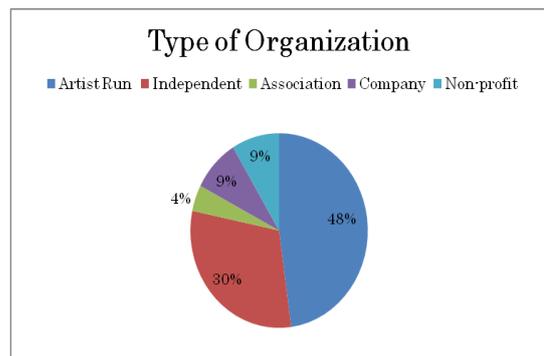
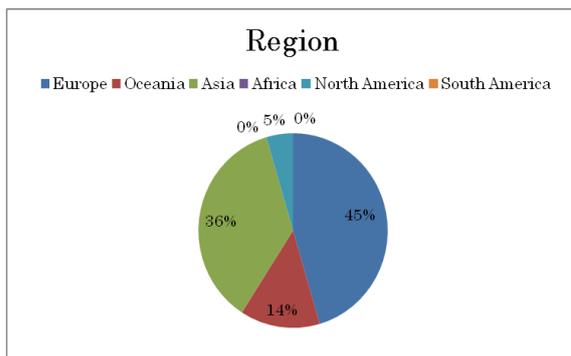
オーストラリア・メルボルンで9年間、メルボルン大学ヴィクトリアンカレッジオブジァーツでの学位と修士課程を経てアーティストとして活躍、前年の遊工房でのスタジオプログラム活動を経て再度帰国、GIPとして、遊工房10周年記念事業の計画、広報(広報誌「be 遊」編集他)の実務を通じた研修を実施しました。



(幻となった「be 遊 007」) \*発行直前の3・11震災で、広報誌 be 遊 07号の配布は取り止めとなりました。

・太田エマ 2011年6月～12月(7ヶ月)

英国出身、英国美術大学ノッティンガムトレント大学大学院卒業後、武蔵野美術大学大学院でのリサーチを経て、東京でアートマネジメントなどの実務に従事。また、アート、テクノロジー、ローカリティとの関係を背景としたアート活動グループ「ディスロケット」の代表も務めています。遊工房が展開する地域アート活動(トロールの森、アートキッズなど)のボランティア活動を経て、震災後、GIPとして活動を始めました。遊工房におけるAIRアーカイブ(AIR機関情報及びその活動の資料など)の整理、また、世界的なAIRネットワーク組織 ResArtis の副代表に就任したディレクター(村田達彦)のもとで、ResArtis 会員管理データの分析を実施、いろいろな特性を把握、今後の戦略検討の一助にもなりました。また、会費未払い状況の分析は機関運営にも資しました。そして、これらの分析作業は、かねてから遊工房が検討してきた、小規模、インディペンデント、アーティスト・ランのレジデンスである「マイクロレジデンス」の研究調査に弾みがかかりました。



マイクロレジデンスアンケート結果より: 会員世界地域別と小規模会員比率 小規模 AIR の比率(事業予算規模)

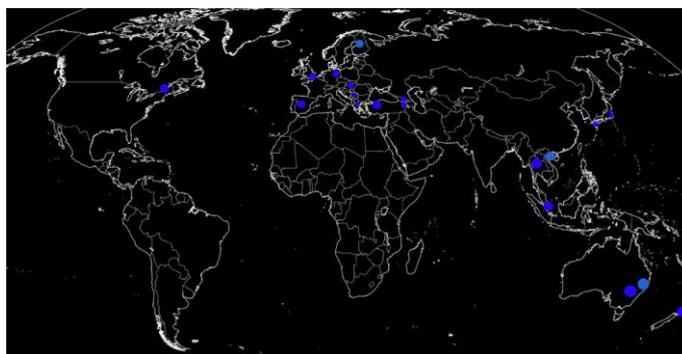
### 3-7. 調査研究 マイクロレジデンス・ネットワークの可能性

遊工房は長い間、AIR に関する運営のアドバイスや経験を共有するために国内外のレジデンスを結びつけるサポート・プラットフォームが必要だと考えており、そして、レジデンスの多種多様な活動の実態を把握するために情報収集に努めていました。こうした背景のもと、新たに、「マイクロレジデンス研究会」活動を始めました。(マイクロレジデンスとは、独立運営で、アーティストが中心となって運営する小規模なもので、柔軟にアーティストのニーズに対応できるレジデンスプログラムとして暫定的に定義)

そして、マイクロレジデンスのネットワークの可能性を探り、その実現を目指すことになりました。これまでに入手してきた国内外レジデンスのリストから、160 軒のレジデンスを選択し、アンケート調査を開始、22 軒のレジデンスが積極的に回答しました。そのデータ分析を通してマイクロレジデンスの多様な存在、または共通課題等が明確になり、遊工房アトスペース 10 周年記念事業の 1 つである、「AIRs vol. 2 アーティスト・イン・レジデンスのほんとうのはなし」(12 月 23 日)の中で紹介できました。そして、翌 12 月 24 日(土)、マイクロレジデンス・ネットワークという試みへの積極的な賛同を示した、INSTINC(シンガポール)Shih Yun Yeo、Studio Kura(福岡)の松崎宏史の両ディレクターが出席し、スカイプで Nha San Studio(ベトナム)のリ・フォン・グエンの途中参加も得て、初めてのマイクロレジデンス会議が開催されました。これからどのようにメンバーの利益になるようなネットワークを構成する方法などを議論し、マイクロレジデンスのリサーチを継続しながら、情報やリソースを交換できるネット上のプラットフォームを通して、交流・協力関係を育むことを目指すことが提起されました。今後のネットワーク推進について、相互訪問や、Facebook、Ustreamなどのソーシャルメディアを通してのディスカッションの促進や、2012 年 10 月に東京で開催される Res Artis 世界大会でのネットワーク会議開催を検討します。



マイクロレジデンス会議の様子



マイクロレジデンスの分布図

## 4. ネットワークの展開

### 4-1. Res Artis アーティスト・イン・レジデンスの世界ネットワーク

遊工房アートスペースが加盟している、アーティスト・イン・レジデンスの世界ネットワーク「Res Artis」の副会長に、2011年1月より遊工房共同代表の村田達彦が就任しました。3月に予定されていた地域会議は、東日本大震災の影響で欠席しましたが、同ネットワークのニュースレターに震災後の日本のレジデンスの状況と、緊急時に発揮されるネットワークの重要性という側面を訴え、反響を得ました。

8月には、Res Artis の代表、マリオ・カロが来日。遊工房は、ヨコハマトリエンナーレ特別連携プログラム「新・港村～小さな未来都市(BankARTLifeIII)」にて同氏のレクチャーを主催。「現在進行形：アーティストレジデンシーの世界」というテーマの講演に、アーティスト、レジデンス事業関係者、一般市民など30名あまりの聴衆が集まり、講演後の交流会でも活発に意見が交換されました。

今後も、遊工房アートスペースはレジデンス事業の活動を踏まえ、マイクロレジデンス研究等も並行させながら、世界のアートネットワークの充実に貢献したいと考えています。



### 4-2. JENESYS Programme 東アジアクリエイター招へいプログラム

昨年度に引き続き、国際交流基金 JENESYS プログラム(21世紀東アジア青少年大交流計画)と連携して招聘作家を受け入れました。今年はミャンマー、ヤンゴン在住の新進女性作家、ンゲ・レイが2ヶ月半滞在。スタジオ2での制作や展示活動と並行して、外部のイベントやプロジェクトにも積極的に参加して、ネットワークを広げました。ミャンマーの現代美術第二世代を代表する彼女は、韓国やシンガポールの美術館で作品を発表したり、アーティストのご主人と社会問題に取り組む草の根的アートフェスティバルの主催もしています。彼女のネットワークや経験は、遊工房を通して紹介され、2011年秋には、アーティストの小鷹拓郎が、ミャンマーのパフォーマンスフェスティバルに参加しました。今後も、遊工房とンゲ・レイは、お互いのコミュニティとの繋がりを保ち、活動を共にする機会を創造したいと考えています。



黄金町バザールでのシンポジウム



ニバフでのパフォーマンス



遊工房でのオープンスタジオ

### 4-3. GTS 観光アートプロジェクト

GTS 観光アートプロジェクトは、文部科学省の支援により東京藝術大学と墨田区、台東区が展開しているプロジェクトです。昨年に引き続き2011年も遊工房の滞在作家が同プロジェクトに参加しました。ヤック・ピーターズ(オランダ)は、10月末に開催された、隅田川 Art Bridge2011「下町で発生した見世物、エスプリ展」に出展、オープニングではギ

ターの弾き語りによるパフォーマンスを披露、参加作家、藝大生や講師、地域の人々と交流を深めました。



GTSオープニングレセプションにて



「下町で発生した見世物、エスプリ展示オープニングにて



展示作品

#### 4-4. 新・港村 (ヨコハマトリエンナーレ 2011 特別連携プログラム)

遊工房アートスペースは、ヨコハマトリエンナーレ 2011 特別連携プログラム「新・港村～小さな未来都市」(BankART 1929 主催)に村民(国内のアーティストや学生)として参加しました。8月6日(土)から11月6日(日)まで、会場内にインフォメーションブースを構え、遊工房の活動を紹介すると共に、滞在作家や遊工房スタッフが、AIR や海外のアートシーンに興味のある作家や一般市民と、意見や情報を交換するミングリングを月に一回開催しました。

遊工房共同代表の村田弘子は、新・港村の倭館にて10月14日から11月6日まで開催された、金沢寿美の展覧会「Border Curtain」をディレクション。日韓交流の象徴的な歴史的建築物である倭館で、在日韓国3世の若手アーティストが、北緯38度線を秘密の花園になぞらえた独創的な作品を発表することは、国際展という舞台上、重要な行為だと考えました。

11月5日(土)には、AIRコーディネーターという特殊な職業にフォーカスした「AIRコーディネーター会議01『これからのAIR』」(アークスプロジェクト主催)に出席し、震災後の日本のアーティストインレジデンスの状況把握と、災害への備えについて、レジデンス事業に携わる関係者が意見を交換しました。



ミングリング:ヘイミッシュ・カー



金沢寿美「Border curtain」



AIRコーディネーター会議01

#### 4-5. その他国内外での調査活動

##### <海外でのネットワーク活動>

9月、台湾・台南市の文化事業団体の招聘で、レジデンス事業の可能性を検討し、また、台南のアートシーンを視察しました。ニコラス・トゥータス(オーストラリア)、シーユン・ヨー(シンガポール)と共に現場を視察し、行政、文化団体関係者との意見交換を実施しました。その後、シーユンとマイクロレジデンスの可能性について個別に相談し、その後のマイクロレジデンス会議の開催に繋がりました。

##### <研究者の調査訪問>

10月2日(日)、国際交流基金主催の第七回アジアキュレーター会議に参加したメルボルン在住のインディペンデントキュレーター、ザラ・スタンホープが遊工房へリサーチ訪問。施設を見学すると共に、「people+place+art developing a public」と題し、メルボルン市のパブリックスペースにおけるアーティストの活動を紹介しました。



12月22日(水)、地域におけるアート活動をテーマにリサーチを行うイギリス人キュレーター、キース・ウィットルが遊工房を訪問。代表の村田弘子・達彦が2時間に及びインタビューを受けました。レジデンス事業、トロールの森、アートキッズ等の活動に関する詳細や、背景となる理念等について情報を提供すると共に、意見交換を行ないました。

#### <国内でのネットワーク活動>

九州(福岡、熊本)、北海道(落石、帯広)、前橋、新潟、京都

5月、九州(福岡、熊本)訪問。マイクロレジデンスについての事前相談などで、Studio Kuraへ松崎宏史を訪問。また、九州で活躍中の写真家、今岡昌子を訪問、熊本・津奈木美術館での個展も観賞。

8月、北海道へ、予ねてより興味があった、北海道東端・落石岬の通信所跡の廃屋をつかったスタジオ(池田良二所有)での制作活動現場を訪問。池田良二、高浜利也、井出創太郎の各作家と対談。使用可能期間が夏季のみの厳しい環境での活動実態を視察。帯広では、相原正美アトリエを訪問。また、日仏間の芸術交流として、前橋市内の空き建物で滞在制作を行っているフランス人アーティストグループを訪問。将来に続く芸術交流に期待します。

11月、新潟・水と土芸術祭2012への参加検討の為、滞在アーティストJak Petersと現地を調査し、AIR事業の可能性、作品発表などのプロポーザルを提出しました。

12月、京都精華大学にて滞在制作、学生への指導・交流を行っていた、元遊工房滞在アーティスト、Mark DunhillとTamiko O'Brien(英国)を訪問。大学での展示とプレゼンテーション。”STONE APPRECIATION, Dunhill & O'Brien”を視察し、京都とロンドンの美術大交流の実態もヒアリング。2人の共同作業成果を知る機会にもなりました。



落石にて



相原正美のスタジオにて



台湾・台南市にて

#### <遊工房の事業を活用したネットワーク形成>

海外からAIRプログラムに受け入れるアーティストとは、帰国後も展覧会等の情報をやり取りするほか、遊工房にゆかりのある日本人アーティストやスタッフが各地を訪問する機会を得た折りに再会し、遊工房との繋がりをより強いものとするなど、今後の活動をより充実したものとするためのネットワーク形成を目指して、日々の事業を丁寧に活用しています。アーティストを通じたネットワークは、英国、ドイツ、フィンランド、トルコ、オーストラリア、ミャンマー、ラオスなどの各地のアーティストや美術関係者との連携につながっています。2011年は、石井隆浩(アーティスト)、小鷹拓郎(アーティスト)、進藤詩子(アーティスト/遊工房スタッフ)、佐々木祥江(遊工房スタッフ)、太田エマ(遊工房スタッフ)らが、遊工房のネットワークを活用して、各地で交流活動を行いました。



キャラバンサライ、イスタンブール(左)、ビエンチャン(右)

## 5. コミュニティーアート活動

### 5-1. 「トロールの森」10周年

野外アート展「トロールの森」は、遊工房の地域に向けた活動の中心的な事業であり、国内外のアーティストの他、地元の市民団体や、パフォーマー、桃四小の児童が参加するアートイベントです。善福寺地域に新たなエネルギーを与える仕組み作りを目指しています。

遊工房と同様に、「トロールの森」は、2011年で10周年を迎え、この重要なベンチマークに相応しいプログラムが議論され、計画されました。日本、イギリス、ドイツ、オランダ、フィンランドからの参加アーティストによる美術作品の展示の他、去年から引き続き公園内に専用ステージを設置し、8組の団体やパフォーマーによるパフォーマンスシリーズが開催されました。

今回の新しい試みは、桃四小の児童とアーティストが協働制作した5つのコラボレーションプロジェクトでした。桃四小とは4年生を対象に、これまで数年に亘って「トロールの森」展を鑑賞し、アーティストと交流する特別鑑賞授業を続けてきました。今年は更に、桃四小が積極的な役割を果たし、1年生から6年生まで全学年が様々なコラボレーションプロジェクトに参加し、また、オープニング・イベントとして、桃四小の体育館で交流会が開催されました。10周年となった2011年の「トロールの森」には、多くの地域の方々が参加し、更に地域に密着してきたことが実感できました。



(石井隆浩)



アートツアーにて (川上和歌子)

### 5-2. 「春のトロール」展と福島・南相馬市支援

「春のトロール」展とは、桃四小4年生とアーティストが春の特定の期間と一緒に制作した作品を善福寺公園に展示するプロジェクトで、毎年開催しています。7年目となった今年は、日本人であるアーティスト大田黒衣美の指導のもと、「気のせい？木の精？」というテーマでプロジェクトを展開しました。児童は、木に関連する、捉えることのできない何か不思議な出来事を絵で表現することに挑戦しました。結果として、普段は平凡に見える善福寺公園の森林を、生き生きとした色彩豊かな展覧会に変容させたイベントとなりました。

また、大田黒衣美の呼びかけにより、「春のトロール」展に参加した児童と教員の方々が、東日本大震災で被災した南相馬市へのお見舞いとして画材を収集し、送付しました。「春のトロール」展の来場者や小学校のネットワークを通して、多くの絵の具、クレパスなどが集まりました。児童から南相馬市の小学生に向けたメッセージと作品が、画材と一緒に、鹿島小学校(4校が共同使用)、八沢小学校(6校が共同使用)、真野小学校へと届けられました。今回の活動は、以前遊工房に滞在したフィンランド人アーティスト、アンティ・イロネンが南相馬市(旧原町市)で制作活動を行

なった時にお世話になった元市職員の金子氏の協力のもと実現されました。



授業の様子



善福寺公園ももしの森での展示風景

### 5-3. 「アートキッズ」子どもの為のワークショップ

「アートキッズ」とは、遊工房アートスペースの隣にある桃四小で月一回行われるアートワークショップです。2010年に10周年を迎え、これまで多数のアーティストたちの指導により展開してきたこの活動は、参加した児童が創造的な可能性をより広げる機会を与えています。ワークショップのテーマは年を重ねるごとに多様化し、音楽やパフォーマンス、書道、手芸などの幅広いメディアを活用して行なってきました。

英国出身のアーティスト、ジェイミ・ハンフリーズは、2010年から継続して2011年度の「アートキッズ」を担当し、実験的なドローイングと立体を中心にしたワークショップシリーズを展開しました。今年プログラムの中では、「トロールの森」展に出品されるビデオ作品にコラボレーションするという特別な機会がありました。普段はスポーツイベント等の準備のために先生しか使えない石灰ライナーを子供達に使わせて、校庭でダイナミックなチョークドローイングを描き、学校の屋上から撮影しました。また、佐藤三加をゲストアーティストに迎え、段ボール箱や小さいランプを用いて都市の夜景を作るワークショップを9月に行ないました。





GRAND-DUCHÉ DE LUXEMBOURG  
Ambassade au Japon



Kingdom of the Netherlands



Australian Government



THE FINNISH INSTITUTE IN JAPAN  
フィンランドセンター



J.M.F.A.

resartis

WORLDWIDE NETWORK  
OF ARTIST RESIDENCIES

asian  
cultural  
council

EU  
JAPAN  
fest



JAPAN FOUNDATION  
国際交流基金



JENESYS  
Programme



財団法人 国際文化会館  
International House of Japan

BankART 1929  
ALL ABOUT BANKART



GEIDAI TAITO SUMIDA  
Sightseeing Art Project 2011



Trolls in the Park



88.0MHz



新町商栄会

## 遊工房アトスペース 年間報告 2011

編集:

遊工房アトスペース

発行:

遊工房アトスペース

〒167-0041 東京都杉並区善福寺 3-2-10

TEL: +81-3-5930-5009

FAX: +81-3-3399-7549

E-mail: info@youkobo.co.jp

URL: [www.youkobo.co.jp](http://www.youkobo.co.jp) [www.artinparks.net/](http://www.artinparks.net/)

2012年1月発行、©遊工房アトスペース

## 6. 2011年活動一覧

	AIR・スタジオプログラム				展覧会		イベント		ネットワーク	コミュニティ活動	
	S1	R1	S2	R2	ギャラリー	野外	アーティスト	W.S.		トロールの森	A.K.
1	Marte Keisling (ドイツ) 12.1.2010 - 1.30.2011 O.S. 1.27-1.30			Tuomas Laitinen (フィンランド) 12.12010-2.28.2011	冬季休廊		1.28 金井 +Marte				1.14
					金井学 1.27-2.13		2.1 Tuomas	Etty		2.11	
2	Etty Horowitz (米国) 2.1-2.28 O.S. 2.25		梶田ちひろ・有理 (スタジオプログラム) 2.1-3.14*	Nicky Couits (英国) 3.1-3.14*	Linda Dennis 2.23-3.12			Linda 3.9.	3.9 Art		
										3.11東日本大震災の影響で一時的に使用を停止	
4											春のトロール 4.29-5.5
5	金沢寿美 5.5-5.22 門田光雅 5.25-6.12									Studio Kura 訪問	5.14
											5.21 金沢
6											7.9
											被災状況診断と改修設計
7	Hamish Carr (オーストラリア) 7.1-8.31		Nge Lay (ミャンマー) 7.1-9.22							JENESYS プログラム 7.1-9.22	7.9
											改修・改築・工事
8	O.S. 8.24-8.28									新港村 8.6-11.6 (金沢寿美展 10.14-11.6)	
											7.18 シンポジウム
9	Leo Van der Kleij (オランダ) 9.1-10.1 O.S. 9.24-9.30		O.S. 9.7-9.18			遊工房の歴史展				台湾 AIR ミーティング 9.10-12	
											10.8+22
10	Antti Ylonen (フィンランド) 10.2-11.30		Katrin Paul (ドイツ)		Jak Peters (オランダ) 10.1-11.30	遊工房コレクション展	Katrin Paul 10.16-29	Jak Peters 10.16-29		GTS 10.22-10.29	
11	丸山常生・芳子 + Antti Ylonen (フィンランド) 11.3-11.23		梶田有理 11.3-11.23			進藤環 + 玉木直子 11.3-11.23				トロールの森 (善福寺公園 + 桃四小) 11.3-11.23	
											11.12 トーク
12	Stina Fisch (ルクセンブルク) 12.2-1.30 O.S. 12.23			Shih Yun Yeo (シンガポール) 12.2-12.30		加藤巧 12.1-12.18 松本恭吾 12.23-1.30 (O.S. 12.23)				12.24 マイク ロレジデンス	12.1

S1=スタジオ1, R1=レジデンス1, S2=スタジオ2, R=レジデンス2, O.S.=オープンスタジオ, C.S.=クリティークセッション, W.S.=ワークショップ, A.K.=アートキッズ, \*=3.11東日本大震災の影響で継続が中止となったプログラム